

## 令和6年度第6回東大和市子ども・子育て支援会議 要録

〔日 時〕 令和7年2月6日（木）午後2時～4時  
〔会 場〕 会議棟 第1・2会議室  
〔出席人数〕 委員7人（1人欠席）  
〔傍 聴 人〕 3人

### 議題

#### ○審議事項(1)「(仮称)東大和市子ども・若者未来プラン(案)について」

##### 【事務局】

(前回会議からの変更点を説明)

- ・第1章計画策定の趣旨に子どもや若者の視点を尊重することについての文言を追加し、計画の名称の説明につなげた。
- ・中学生・高校生ワークショップであげられた意見をもとに、新たな取組を検討することを追加。
- ・子ども・若者の権利の保障に関する事業として「人権施策企画推進事業」を追加。
- ・子育てと仕事の両立支援の仕組みづくりに「ランドセル来館」を追加。
- ・子育て短期支援事業(子どもショートステイ事業)の利用人数がここ数年で大幅に増加していることから量の見込みを再検討し、令和7年度以降の「量の見込み」の数値を修正。
- ・産後の休業及び育児休業後における教育・保育施設等の円滑な利用の確保、次世代育成支援対策推進法について修正。
- ・パブリックコメントの結果や、パブリックコメント期間中に実施した中学生・高校生ワークショップについての説明を追加。

(オープンハウスの説明)

オープンハウスでは、計画案の概要を掲載したパネルを掲示し、来場者に閲覧いただいたほか、施策の方向性の中で、特に重要と思うものに投票をしてもらった。

投票の結果、各施策への投票数に大きな差はなく、幅広く必要と感じられていることがわかったが、その中で比較的投票数が多かった施策は、「放課後等の居場所づくりへの支援」、「生きづらさを抱える若者への支援」、「子育て家庭を地域で支える仕組みの充実」の3つであった。

#### ○審議事項(2)「令和6年度の市長答申案について」

##### 【事務局】

令和4年度までは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、取組の回数の減などにより、評価が「1・一部達成」となった事業がいくつかあったが令和5年度は、ほぼ全ての事業が「3・達成」「2・ほぼ達成」の評価となっていることから、おおむね順調に取り組まれていることに言及したうえで、評価が「1・一部達成」であった事業については、改善を図るよう求めた。また、「3・達成」や「2・ほぼ達成」の評価となっている事業についても、更なる充実を図るよう求める内容を記載した。

まとめとして、子ども・若者・子育て支援施策について、子どもや若者、子育て当事者の視点を尊重し、すべての子ども・若者の健やかな成長と自立への支援及び子育て支援の更なる充実に向け、取組を進めるよう記載した。

答申後は、「東大和市子ども・若者未来プラン」は東京都への協議を経て、策定となる予定。なお、概要版の作成も予定している。

「子ども・子育て未来プランの令和5年度実施状況報告書」についても令和7年3月に策定を予定。いずれも、策定後の4月頃に、市の公式ホームページにて公表する予定。

#### ○報告事項(1)「令和7年度保育施設4月入園一次申請の結果送付及び二次申請について」

**【事務局】**

令和7年度4月入園一次申請を11月から開始して、約500人件程度の申請があり、令和6年度と比較するとほぼ横ばいである。

昨年は2歳児の申し込みが多かったが、今年は1歳児の申請数が戻り例年通りである。

**○報告事項(2)「令和6年度子ども・若者の意見聴取の取組について」**

**【事務局】**

(今年度実施した子ども・若者の意見徴取の内容)

小学生対象の取組：「小学生ワークショップ」「こどもアンケート」「児童館インタビュー」

中学生、高校生対象の取組：「中学生・高校生ワークショップ」「高校生等アンケート」

若者対象の取組：「若者アンケート」「若者インタビュー」

年齢別にみると、小学生は施設の新設や設備の充実などのハード面に関する意見が多く、中学生・高校生・若者世代は、居場所や、事業などのソフト面に関する意見が多くみられた。

(聴取した意見の反映)

子ども・若者から聴取した意見を、計画案の課題や目標、今後の方向性などに反映した。具体的な事業への反映はしていないが、今後、令和7年度から11年までの計画期間中に、課題の解決、目標達成に向け、どのようなことが出来るかを検討していく。

(子ども・若者へのフィードバック)

令和7年4月以降に市公式ホームページに掲載予定。また、その掲載ページをお知らせする通知を、市内の小学校、中学校、高校を通じて児童・生徒に配布し、お知らせする予定。

なお、子ども・若者の意見聴取の取組は、令和7年度以降も引き続き実施し、聴取した意見の施策等への反映について、検討していく。

**【委員】** 意見を出してくれた各世代に対してどのように反映させていくのか、今後もワークショップなどの取組を継続して行ってほしい。

**【事務局】** 他課に関連する意見もあるので、庁内で共有、連携し、反映を検討していきたい。意見聴取は今後も実施したい。

**【事務局】** 都市マスタープランや、公共施設再編など街づくりに関する計画でも市民の意見の反映をする必要があるため、それらにも子ども・若者の意見を反映させていきたい。今回実施したワークショップでは、意識の高い子たちが参加してくれたが、普段意見を言えない子どもたちの意見も大切であるので、どのようにすればその子どもたちの意見もくみ取ることができるかが課題。

**【委員】** 今小学校では総合的な学習の時間に力を入れていて、地域の魅力を発信する取組を多く行っている。実際に「こんな東大和市になってほしい」という意見も出ているのでその声を無駄にせず市と連携して子どもたちの声を反映させていく事が大切。

今年だけでなく、常にワークショップなどの取組を行い、実施する取組も子ども目線で行うようにするべき。

**【委員】** 参加してくれた中学生・高校生の内訳が知りたい。

**【事務局】** 中学生7人・高校生5人が参加

**【委員】** 意識が高い子が参加してくれることは素晴らしいことであるが、その子どもたちの意見だけを反映させるのではなく、不登校の子などの意見も反映させたい。

様々な取組を行っただけで終わらずに、実施後のフィードバックなども行うべきである。

まちを変えていくためにもっとあなたたちの声が必要ということ子どもたちに対して投げかけたい。

【会長】あがってくる声を拾うことは大切であるが、あげられない声をくみ取ることが大切。

【委員】東大和南公園や桜が丘一丁目公園に新しい遊具ができたり、掃除が行き届いていたり、とてもありがたい。また掃除をしてくれているボランティアの方もたま目にするが非常にありがたい。公園がよくなっていることを実感した。

【委員】児童館インタビューで子どもから「市民への交通ルールへの徹底」とあがるのは恥ずかしいことである。大人が守るべきルールを守り子どものお手本となるべきである。

【委員】今年度で子ども家庭支援センターが無くなるが、子ども家庭支援センターの跡地はどうするのか。また、今まで行っていた「かるがも」や一時預かりの代わりの事業はないのか

【事務局】

老朽化が進んでいるため、あのままで使うことはない、新たな事業を市が直接行うことはない。

【委員】7小・9小の統合について詳細を知りたい。

【事務局】7年度以降に予算を計上して進めることになる。2月の議会で令和7年度当初予算を審議し、公表する予定。当初の計画よりは遅れてしまう。

【委員】令和8年度から中学校が35人学級になる。4中に娘がいるが40人学級の現状で空いている教室はない。35人学級では教室が足りないと思うが大丈夫なのか。

【事務局】必要な教職員の確保はできていると報告を受けている。具体的な各学校のクラス編成などは把握できていない。

【委員】確かに4中の地域は子どもが増えている。また普通教室に加えて少人数教室などの特別教室も必要である。普通教室がぎりぎりであるのに特別教室も設けると厳しい部分もある。特別支援教室も家庭科室と併用して行っているほど教室が足りていないので対策は必要であると考えます。